

中学生における体育嫌いの原因に関する研究
井澤 謙吾(競技スポーツ学科 トレーニング・健康コース)
指導教員 武田 哲子

キーワード：体育嫌い,運動嫌い,生涯スポーツ

1. 緒言

生涯スポーツを実現させるためには、子どもの頃に正しい運動習慣を身につけ、スポーツの素晴らしさを身をもって体験することが必要である。また児童・生徒における運動は心身の健全な発育のために重要である。しかしながら子どもたちの現状は運動を積極的に行う者と行わない者の二極化が進んでおり、運動不足による体力・運動能力の慢性的低下などの問題をかかえている。子どもたちの運動離れが深刻化しているが、その原因の一つに「体育嫌い」があると考えられる。

そこで本研究では、中学生の「体育嫌いを」生み出す原因や時期、過程等を明らかにし、今後の学校体育の改善の基礎資料を得ることを目的とし体育授業に関する意識調査を行った。

2. 研究方法

大津市内の公立中学に通う中学3年生、男女193名(男84名、女子82名)を対象に「体育嫌い」に関するアンケート調査を実施した。データ解析には、統計ソフト IBMSPSS22.0を使用した。質問項目は回答人数(%)で示し、回答数の違いの検定に χ^2 検定を行った。有意水準は5%とした。

3. 結果および考察

中学生の「体育嫌い」の実態として、体育が「あまり好きではない」が14.5%、「嫌い」が4.1%で全体の約20%の生徒が体育に対して否定的感情をいだいていることが示された。また運動嫌いに関しても同様の値を示した。本研究では、「体育嫌い」の原因が小学生以前の運動

や遊びの経験と関連していた(表1)。また生徒が教師に求める指導上の留意点として「体育の授業時のグループ分けに注意してほしい」の回答が最も多くあげられた。その結果から、「体育嫌い」を減らす要因として生徒同士の仲の良さやチーム力の均等に配慮しながらチームやグループ分けをすることが重要であることが考えられる。

表1 「体育嫌い」と小学生以前の運動や遊びの経験の関係

	とてもある	ある	あまりない	ほとんどない
大好き	60%(42名)	27.1%(19名)	11.4%(8名)	1.4%(1名)
好き	32.1%(28名)	51.7%(45名)	12.6%(11名)	3.4%(3名)
あまり好きではない	18.4%(4名)	44.4%(12名)	33.3%(9名)	7.4%(2名)
嫌い	0%(0名)	25%(2名)	62.5%(5名)	12.5%(1名)

P<0.000

4. 結論

今回の研究では「体育嫌い」・「運動嫌い」が一部にしかみられなかった。「体育嫌い」の原因としては小学生以前の運動や遊びの経験が影響している可能性が大きい。今後は年代や地域を広範囲にし、調査を進める必要がある。

参考文献

文部科学省(2008)中学校学習指導要領解説保健体育編東山書房, pp. 6-28.